

令和2年度 森ノ宮医療大学卒業式 学長式辞

2021年3月18日

於ハイアットリージェンシー

卒業生の諸君、卒業、誠におめでとうございます。学生生活を支えてこられたご家族の皆様にも心からお祝いを申し上げます。そして本日の卒業式挙行にあたり、平素より御指導・御支援いただいている相互連携協定施設をはじめ、臨地実習施設、就職先施設の皆様にも深く感謝申し上げます。

本日は、看護学科、理学療法学科、作業療法学科、臨床検査学科、鍼灸学科の保健医療学部合計5学科、ならびに大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程、医療科学専攻博士後期課程、助産学専攻科、合わせて294名が卒業されます。各学科・専攻科の医療資格に加え、看護学科では保健師免許を取得された者が6名、教職課程を修了され養護教諭免許を取得された者が7名、鍼灸学科スポーツ特修コースでも同じく教職課程を修了され中高保健体育教員免許1種を取得された者が14名でございます。厳しいカリキュラムを優れた成績で修了した皆様の努力に、心より敬意を表します。

さて、今年度卒業の皆さんは、人類史上未曾有の困難とも言えるCOVID-19パンデミックを経験されました。本当に大変であったと思います。2度にわたる緊急事態宣言の発出は国民全体に計り知れない恐怖、疑心暗鬼、自粛生活、感染防御のための行動変容などをもたらしました。本学としても登校制限あるいはオンライン授業の構築など、全く経験したことのない事態を前に試行錯誤の連続でした。皆様には多くの規制・負担をかける結果となり、また、充実した最後の大学生活を送るはずの1年間に支障をきたしたことに對し、大変心苦しく思っています。

しかし、皆さんは医療職を目指してきた、医療系大学の学生です。この新型コロナウイルスのパンデミックの経験は一般の人たちとは違うものであり、きっと得るものも多かったと思います。残念ながら一部の心無い人たちは医療従事者に対し差別的な偏見を抱きました。一方で、多くの人たちは献身的に働く医療人に対し敬意と感謝の念を抱きました。医療現場を取り巻く環境は劇的に変わりました。これから医療従事者として社会に出る諸君は

この禍を福として頂きたい。困難の中、コロナ禍を乗り越え見事卒業したことを誇りに思い、人々に尽くす医療人のすばらしさを改めて認識し、そしてここに、再び決意を新たにしたいと思っています。

さて、これから皆さんがかかわっていく医療分野は、大きな変革期にあります。その大きな要因のひとつは言うまでもなくわが国の超高齢化です。認知症患者の増加、ADL や QOL が低下した要介護者の増加など、これらは医療問題にとどまらず、もはや社会的課題であり、医療・福祉分野に寄せられる期待は大変大きなものです。高齢者医療・在宅医療の充実喫緊の課題です。単に「疾患を治療する」というこれまでの概念から、「治し・支える医療」に大きく転換しようとしています。「治し・支える医療」では、中小の急性期病院を含んだ医療・介護の多職種協働ネットワークに基づくチーム医療が中心であり、これにかかわる医療専門職の役割はこれまで以上に大きなものとなります。本学では、様々な医療職種の能力が相加的・相乗的に発揮されるチーム医療の教育に重点をおいてきました。自分の専門分野を超えて、他職種を知り、他職種とコミュニケーションを取り、患者とその家族を「One team (ワンチーム)」で支える・・・本学の特徴である「学科を超えた学び」と「チーム医療教育」を経験した諸君は、必ずやリーダーシップをもって、この「One team (ワンチーム)」を牽引してくれるものと確信しております。

医療の変革のもうひとつの要素、それは、すさまじいまでに日々進歩する科学技術の流入です。再生医療や創薬の進歩、ロボット技術による先進的外科手術、診断治療への AI の活用など、未来の医療と思われていたものが現実のものとなりつつあります。さらには、グローバル化を加速させる情報技術の革新的発展、すなわち ICT や IOT、ビッグデータの活用もこの時代の医療に大きな影響を与えています。情報機器を通じて、いつでもどこでも、簡単に最新の情報、膨大な知識にアクセスできるようになりました。医療人となる諸君は、必然的にこの大きな潮流に引き込まれることとなりますが、情報技術をコントロールするのはあくまで人間である諸君自身であるということ忘れてはなりません。あふれる情報に漫然と流されることなく、自分で考えるということは、患者の生命を左右する職業である諸君には非常に大切なことです。

そして何より、医療の本質は科学技術の発展の中であってなお人間同士の繋がりであり、患者や家族の心に寄り添うことです。皆さんは、近年、重要視されている Narrative-based

Medicine(NBM)についても学びました。ナラティブとは物語。すなわち、物語に基づいた医療、物語を紡ぐ医療ということです。ここで言う物語とは、患者の物語です。患者が皆さんとの対話を通じて語る病気の経緯、病気について今考えていること、これまでの人生、価値観、家族。患者それぞれに物語があり、そこに目を向けること、それこそが、“患者に寄り添う”ということです。単に病気を見るだけではない、様々な患者背景を考慮した全人的医療です。患者の言葉に耳を傾け、寄り添い、その物語を共に紡いでいく・・・医療人として決して忘れてはならない心です。科学的な目と患者に寄り添える人間性。このふたつを合わせ持つ素晴らしい医療人に育ってほしいと願っています。

さて、諸君は今、未曾有の困難を克服し、希望に満ち溢れ、医療人として社会人としての旅立ちの日を迎えました。友と過ごした学生生活、尊敬できる師との出会い、知識を得る喜びや達成感、様々な思いが皆様の胸を去来していることと思います。本日、輝きを増し、自信に満ちて、大きな一步を踏み出そうとしている諸君を見ることは、森ノ宮医療大学教職員一同の大きな喜びであり誇りであります。そして、森ノ宮医療大学もまた、皆さんが築いてくれた礎をもとに、さらに10年、20年後を見据え、皆さんが誇りを持てる大学に発展していきたいと考えています。皆さんの母校、森ノ宮医療大学の扉はいつでも大きく開いていることを忘れないでください。森ノ宮医療大学と卒業生の皆さんもまた、「One Team」です。繋がりは決して絶えることなく、卒業後もいつでも皆さんを歓迎します。

皆さん、ご卒業、本当におめでとう。今後の皆様の大きな飛躍と素晴らしい人生を祈念し、ご卒業のお祝いの言葉とさせていただきます。

令和3年3月18日 森ノ宮医療大学 学長 荻原俊男